第３講　共通テスト第１日程 第４問

第４問

次の【問題文Ⅰ】の詩と【問題文Ⅱ】の文章は、いずれも馬車を操縦する「御（ぎょ）術（じゅつ）」について書かれたものである。これらを読んで、後の問い（問１～６）に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。（配点 50）

【問題文Ⅰ】

吾ニ有リ二千里ノ馬一　毛（注1）骨何（1）蕭（せう）（注2）森タル

疾（はや）ク馳（は）スレバ如ク二奔風ノ一　白日無シレ留ムルレ陰ヲ

徐（おもむ）ロニ駆（か）クレバ当タリ二大道ニ一　歩（ほ）（注3）驟（しう）ハ中（あ）タル二五（注4）音ニ一

A　馬ニ雖モレ有リト二四足一　遅速ハ在リ二吾ガ［X］一

六（りく）（注5）轡（ひ）ハ応ジ二吾ガ手ニ一　調和スルコト如シ二瑟（しつ）（注6）琴ノ一

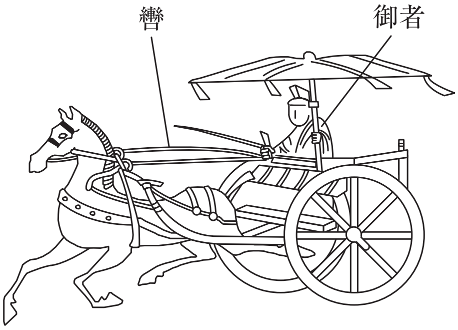
東西ト与ニ南北一　高‐二下ス山ト与ヲレ林

メモ欄

B

惟意所欲適
(3)至レル哉人ト与レ馬
伯(注8)楽ハ識(し)ルモ二其ノ外ヲ一
王良ハ得タリ二其ノ性ヲ一
良馬ハ須(ま)ツ二善(注9)馭(ぎよ)ヲ一

九(注7)州可シ二周(2)尋ヌ一
両楽不二相侵サ一
徒(ア)知ル二価ノ千金ナルヲ一
此ノ術固(イ)已ニ深シ
吾ガ言可レシ為レス箴(しん)(注10)ト



馬車を走らせる御者

メモ欄

（注）
1 毛骨――馬の毛なみと骨格。
2 蕭森――ひきしまって美しい。
3 歩驟――馬が駆ける音。
4 五音――中国の伝統的な音階。
5 六轡――馬車を操る手綱。
6 瑟琴――大きな琴と小さな琴。
7 九州――中国全土。
8 伯楽――良馬を見抜く名人。
9 善馭――すぐれた御者（前ページの図を参照）。馭は御に同じ。
10 箴――いましめ。

（欧陽脩『欧陽文忠公集』による）

【問題文Ⅱ】

王良は趙国の襄主に仕える臣であり、「御術」における師でもある。ある日、襄主が王良に馬車の駆け競べを挑み、三回競走して三回とも勝てなかった。くやしがる襄主が、まだ「御術」のすべてを教えていないのではないかと詰め寄ると、王良は次のように答えた。

凡ソ御之所ㇾハ貴ブ、馬体(a)安ンジ二于車一ニ、人心(b)調ヒ二于馬一ニ、而ル後ニ可三シ以テ進ムコト(c)速ヤカニシテ致ス二レ遠キヲ。今君(C)

後則欲レ逮レ臣、先則恐レ逮二于臣一。夫レ誘（すす）メテレ道ニ争フハレ遠キヲ、非ザレバレ先ンズルニ則チ後ルル也。而シテ先(d)後ノ心ハ在リ二于臣(e)一ニ。尚ホ何ヲ以テ調ハン二於馬一ニ。此レ君之所二以後一ルル也。

（『韓非子（かんぴし）』による）

メモ欄

問１　波線部(ア)「徒」・(イ)「固」のここでの意味と、最も近い意味を持つ漢字はどれか。次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。
解答番号は［１］・［２］。

(ア)「徒」［１］
① 只
② 復
③ 当
④ 好
⑤ 猶

(イ)「固」［２］
① 強
② 難
③ 必
④ 絶
⑤ 本

問２　波線部(1)「何」・(2)「周」・(3)「至哉」のここでの解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は［3］～［5］。

(1)「何」［3］
① どこが
② いつから
③ どのように
④ どうして
⑤ なんと

(2)「周」［4］
① 手あたり次第に
② 何度も繰り返して
③ あらゆるところに
④ きちんと準備して
⑤ はるか遠くより

(3)「至哉」［5］
① あのような遠くまで行くことができるものなのか
② こんなにも人の気持ちが理解できるものなのか
③ あのような高い山まで登ることができようか
④ このような境地にまで到達できるものなのか
⑤ こんなにも速く走ることができるだろうか

問３　**【問題文Ⅰ】**の傍線部Ａ「馬雖レ有二四足一遅速在二吾［Ｘ］一」は「御術」の要点を述べている。**【問題文Ⅰ】**と**【問題文Ⅱ】**を踏まえれば、**【問題文Ⅰ】**の空欄［Ｘ］には**【問題文Ⅱ】**の二重傍線部(a)～(e)のいずれかが入る。空欄［Ｘ］に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は［６］。

①　(a)　体

②　(b)　心

③　(c)　進

④　(d)　先

⑤　(e)　臣

問４　傍線部Ｂ「惟 意 所 欲 適」の返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。
解答番号は 7 。

①　惟 意 所二欲 適一　　惟（た）だ意の欲して適（かな）ふ所にして

②　惟 意 所 欲レ適　　惟だ意（おも）ふ所に適（かな）はんと欲して

③　惟 意レ所レ欲 適　　惟だ欲する所を意（おも）ひ適（ゆ）きて

④　惟 意 所レ欲レ適　　惟だ意の適（ゆ）かんと欲する所にして

⑤　惟 意レ所二欲 適一　　惟だ欲して適（ゆ）く所を意（おも）ひて

問５　傍線部Ｃ「今君後則欲レ逮レ臣、先則恐レ逮二于臣一。」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **8** 。

① あなたは私に後ろにつかれると馬車の操縦に集中するのに、私が前に出るとすぐにやる気を失ってしまいました。

② あなたは今回後れても追いつこうとしましたが、以前は私に及ばないのではないかと不安にかられるだけでした。

③ あなたはいつも馬車のことを後回しにして、どの馬も私の馬より劣っているのではないかと憂えるばかりでした。

④ あなたは後から追い抜くことを考えていましたが、私は最初から追いつかれないように気をつけていました。

⑤ あなたは私に後れると追いつくことだけを考え、前に出るといつ追いつかれるかと心配ばかりしていました。

問６　【問題文Ⅰ】と【問題文Ⅱ】を踏まえた「御術」と御者の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 9 。

① 「御術」においては、馬を手厚く養うだけでなく、よい馬車を選ぶことも大切である。王良のように車の手入れを入念にしなければ、馬を快適に走らせることのできる御者にはなれない。

② 「御術」においては、馬の心のうちをくみとり、馬車を遠くまで走らせることが大切である。王良のように馬の体調を考えながら鍛えなければ、千里の馬を育てる御者にはなれない。

③ 「御術」においては、すぐれた馬を選ぶだけでなく、馬と一体となって走ることも大切である。襄主のように他のことに気をとられていては、馬を自在に走らせる御者にはなれない。

④ 「御術」においては、馬を厳しく育て、巧みな駆け引きを会得することが大切である。王良のように常に勝負の場を意識しながら馬を育てなければ、競争に勝つことのできる御者にはなれない。

⑤ 「御術」においては、訓練場だけでなく、山と林を駆けまわって手綱さばきを磨くことも大切である。襄主のように型通りの練習をおこなうだけでは、素晴らしい御者にはなれない。

第３講　共通テスト第２日程 第４問

第４問 次の文章は、北宋（ほくそう）の文章家曾鞏（そうきよう）が東晋（とうしん）の書家王羲之（おうぎし）に関する故事を記したものである。これを読んで、後の問い（**問１〜７**）に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。（配点　50）

羲之之書ハ、(ア)晩乃善。則チ其ノ所レハ能クスル、蓋シ亦タ以テ二精力ヲ一自ラ致ス者ニシテ、非ザル二天成ニ一也。然レドモ後世【X】レ有二能ク及ブ者一、A豈其学不レ如レ彼邪。則チ学ハ固ヨリ(イ)豈可二以少一哉。B況ンヤ欲ス三深ク造（いた）ラント二道徳ニ一者ヲ邪。墨池之上（ほとり）ハ、今為ル二州ノ学舎ト一。（注1）教（注2）授王君盛ハ、恐ルル二其ノ不ルヲ一レ章（あらは）レ也、書シ二晋ノ王（注3）

メモ欄

右軍ノ墨池之六字ヲ於楹（えい）（注4）間（かん）一ニ以テ掲レグ之ヲ。又タ告二ゲテ於鞏（注5）一ニ曰ハク、「願ハクハ有レランコトヲト記。」推二スニ C王君之心一ヲ、豈ニ愛二シテ人之善一ヲ、雖二モ一能一ト不二シテ以テ廃一セ、而因リテ以テ及二ブ乎其ノ跡一ニ邪。其レ亦タ欲下スル推二シテ其ノ事一ヲ以テ勉（はげ）マサント中其ノ学ブ者上ヲ邪。D夫人之有一能而使後人尚之如此。況ンヤ仁（注6）人荘士之遺（注7）風余思、被（かうむ）二ル於来世一ニ者如何ゾ哉。

（曾鞏「墨池記（ぼくちき）」による）

（注）
1 州学舎 —— 州に設置された学校。
2 教授王君盛 —— 教授の王盛（おうせい）のこと。
3 王右軍 —— 王羲之を指す。右軍は官職名。
4 楹 —— 家屋の正面の大きな柱。
5 鞏 —— 曾鞏の自称。
6 仁人荘士 —— 仁愛の徳を備えた人や行いの立派な者。
7 遺風余思 —— 後世に及ぶ感化。

メモ欄

問１　波線部(ア)「晩乃善」・(イ)「豈可$_{二}$以少$_{一}$哉」のここでの解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は［1］・［2］。

(ア)「晩乃善」［1］
① 年齢を重ねたので素晴らしい
② 年を取ってからこそが素晴らしい
③ 晩年になってさえも素晴らしい
④ 晩年のものはいずれも素晴らしい
⑤ 年齢にかかわらず素晴らしい

(イ)「豈可$_{二}$以少$_{一}$哉」［2］
① やはり鍛錬をおろそかにするにちがいない
② きっと稽古が足りないにちがいない
③ なんと才能に恵まれないことだろうか
④ どうして努力を怠ってよいだろうか
⑤ なぜ若いときから精進しないのか

問2　空欄 X に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 3 。

① 宜
② 将
③ 未
④ 当
⑤ 猶

問３　傍線部Ａ「豈 其 学 不レ 如レ 彼 邪」に用いられている句法の説明として適当なものを、次の①〜⑥のうちから**二つ**選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は 4 ・ 5 。

① この文には比較の句法が用いられており、「〜には及ばない」という意味を表している。
② この文には受身の句法が用いられており、「〜されることはない」という意味を表している。
③ この文には限定の句法が用いられており、「〜だけではない」という意味を表している。
④ この文には疑問を含んだ推量の句法が用いられており、「〜ではないだろうか」という意味を表している。
⑤ この文には仮定を含んだ感嘆の句法が用いられており、「〜なら〜ないなあ」という意味を表している。
⑥ この文には使役を含んだ仮定の句法が用いられており、「〜させたとしても〜ではない」という意味を表している。

問４　傍線部Ｂ「況欲㆔深造㆓道徳㆒者邪。」とあるが、その解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **6** 。

① ましてつきつめて道徳を理解しようとする者がいるのだろうか。
② まして道徳を体得できない者はなおさらであろう。
③ それでもやはり道徳を根付かせたい者がいるであろう。
④ ましてしっかりと道徳を身に付けたい者はなおさらであろう。
⑤ それでも道徳を普及させたい者はなおさらではないか。

問5　傍線部C「王君之心」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 7 。

① 一握りの才能ある者を優遇することなく、より多くの人材を育ててゆこうとすること。
② 王羲之の墨池の跡が忘れられてしまうことを憂い、学生たちを奮起させようとすること。
③ 歴史ある学舎の跡が廃れていることを残念に思い、王羲之の例を引き合いに出して振興しようとすること。
④ 王羲之の天賦の才能をうらやみ、その書跡を模範として学生たちを導こうとすること。
⑤ 王羲之ゆかりの学舎が忘れられてしまったことを嘆き、その歴史を曾鞏に書いてもらおうとすること。

問６　傍線部**Ｄ**「夫人之有一能而使後人尚之如此」の返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **8** 。

① 夫人之有㆓一能㆒而使㆓後人㆒尚㆑之㆑如㆑此
夫(か)の人の一能有りて後人を使ひて此(か)くのごとく之を尚(たつと)ぶ

② 夫人之有㆓一能㆒而使㆓後人尚㆒㆑之㆑如㆑此
夫の人を之れ一能有れば而(すなは)ち後人をして此くのごときに之(ゆ)くを尚ばしむ

③ 夫人之有㆓一能㆒而使㆓後人尚㆒㆑之如㆑此
夫(そ)れ人の一能有りて後人をして之を尚ばしむること此くのごとし

④ 夫人之有㆘一能而使㆓後人尚㆒㆑之如㆖㆑此
夫れ人を之れ一能にして後人をして之を尚ばしむること此くのごとき有り

⑤ 夫人之有㆘一能而使㆓後人㆒尚㆑之如㆖㆑此
夫れ人の一能にして後人を使ひて尚ぶこと此くのごとき有り

問７　「墨池」の故事は、王羲之が後漢の書家張芝（ちょうし）について述べた次の**【資料】**にも見える。本文および**【資料】**の内容に**合致しないもの**を、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は　9　。

> **【資料】**
>
> 云ハク、「張芝臨（レ）ミテ池ニ学（レ）ビ書ヲ、池水尽ク黒シ。使（二）メバ人ヲシテ耽（ふけ）（レ）ルコト之ニ若（レ）クナラ是（かクノ）、未ダ（二）ル必ズシモ後レ（レ）之ニ也ト。」
>
> （『晋書（しんじょ）』「王羲之伝（おうぎしでん）」による）

①　王羲之は張芝を見習って池が墨で真っ黒になるまで稽古を重ねたが、張芝には到底肩をならべることができないと考えていた。

②　王盛は王羲之が張芝に匹敵するほど書に熱中したことを墨池の故事として学生に示し、修練の大切さを伝えようとした。

③　曾鞏は王羲之には天成の才能があったのではなく、張芝のような並外れた練習によって後に書家として大成したと考えていた。

④　王羲之は張芝が書を練習して池が墨で真っ黒になったのを知って、自分もそれ以上の修練をして張芝に追いつきたいと思った。

⑤　王盛は張芝を目標として励んだ王羲之をたたえる六字を柱の間に掲げ、曾鞏にその由来を文章に書いてくれるよう依頼した。

■ 共通テスト第１日程

問題番号（配点）	設　問	解答番号	正　解	配　点
第４問（50）	1	1	1	4
		2	5	4
	2	3	5	5
		4	3	5
		5	4	5
	3	6	2	6
	4	7	4	6
	5	8	5	6
	6	9	3	9

■ 共通テスト第２日程

問題番号（配点）	設　問	解答番号	正　解	配　点
第４問（50）	1	1	2	5
		2	4	5
	2	3	3	4
	3	4 ー 5	1 ー 4	8(各4)
	4	6	4	7
	5	7	2	6
	6	8	3	7
	7	9	1	8

（注）
ー（ハイフン）でつながれた正解は，順序を問わない。